



伝統の舞を奉納 ～関谷城鉾舞～

関谷地区には城鉾舞と呼ばれる民俗芸能が伝わっています。近隣では市内の上大貫地区、大田原市の上石上地区にのみ伝承されている珍しいもので、それぞれ舞や曲も異なっています。

関谷地区の舞は一時途絶えていましたが、地元有志により35年前に復活したものです。今年も4月29日に関谷の愛宕神社で、地元の子もたちが鉾をかたどった鐘を鳴らしながら、日ごろ練習してきた舞を奉納しました。



満開の桜の下を快走 ～塩原温泉湯けむりマラソン～

桜が満開を迎えた塩原温泉で、毎年恒例の湯けむりマラソン全国大会が4月29日に開催されました。40回目となる今年は、ゲストランナーとして芸能界きっての健脚・猫ひろしさんと、俳優の川岡大次郎さんがそれぞれ10kmと5kmの部に参加して大会を盛り上げました。1,600人を超えるランナーが全国から集まり、沿道の皆さんの声援を受けながら思い思いのペースで桜が舞い散る温泉街を駆け抜けていきました。



モオ〜っと大きくなあれ ～八郎ヶ原放牧場・入牧～

ヤエザクラが咲き誇る5月下旬、今年も湯本塩原の市営八郎ヶ原放牧場への入牧が始まりました。対象となるのは市内で飼育されている生後6カ月以上の乳用牛。各酪農家のトラックで運ばれてきた牛たちは、防虫剤を塗布された後、体重を測り、牧場に放たれます。

16日には31頭が放牧され、気持ちよさそうに走り回ったり草をはんだりしていました。今年も計70頭程が入牧予定で、牛たちは標高800m、広さ51haの起伏に富んだ牧場で過ごし、10月下旬ごろ健康で立派な姿に成長し家に帰る予定です。

市公式Youtube
チャンネルで
動画を公開中



↑初めての光景に緊張だモオ〜



↑体重測定に向けて整列します



↑敷地内には満開のヤエザクラ



田んぼのピッチでビチョビチョに ～泥んこサッカーフェスティバル～

5月3日、北和田の田んぼで6回目を数え、恒例となっている泥んこサッカーが開催されました。

田植え前の水が張られた田んぼをフィールドに、開始のホイッスルとともに泥まみれになって駆け回る子どもたち。泥に足を取られ、走るのも大変。ボールは水の抵抗で、蹴っても蹴ってもなかなか前に進みません。この日、大田原から参加した山田雄大くん(小4)は「すごく楽しかったけど、普段の練習よりも疲れた」と満足げに話してくれました。



初々しい舞を披露 ～百村の百堂念仏舞～

江戸時代から伝わる国選択無形民俗文化財・百村の百堂念仏舞が4月29日に高林小6年生29人により行われました。雷雨で光徳寺本堂内のみで舞が披露され、子どもたちは色とりどりの衣装を身にまとい、踊りながら太鼓や鐘、形振(鉄の輪を組み合わせた楽器)などを演奏。2週間にわたる練習の成果を披露しました。高林小6年の後藤圭佑くんは「外で踊れなかったのは残念だったけど、みんなと楽しく踊れてよかった」と話してくれました。



会場内は爆笑の渦に ～黒磯文化会館・開館35周年事業～

4月28日、黒磯文化会館でNHK「五木先生の歌う! SHOW学校」の公開収録が行われました。

テレビでおなじみの五木ひろしさんや由紀さおりさんらの圧倒的な歌声に聞き入りました。コロケさんのコミカルなものまねや要所要所で飛び出す大田原市出身のU字工事・益子卓郎さんの栃木弁によるトークで会場内は爆笑の渦に。また、市内のダンススタジオで活動しているダンサーが登場し、観客を沸かせました。



自然の恵み“温泉”への感謝 ～板室温泉三大祈願祭～

4月23日、板室温泉街の河川敷で板室温泉三大祈願祭の最後を締めくくってお焚き上げが催されました。古くから下野の薬湯と称され、その効能も折り紙つきの「板室温泉」。さらに効能を高めようと、古くから人々が三大祈願所を訪れ、病気平癒・無病息災を祈願してきました。この日、冬季に温泉の湯口に供えられた祈願所のお札が焚き上げられ、私たちが癒してくれる“温泉”への感謝の気持ちが晴天の春の青空に舞い上がりました。